

## ●貸別荘でハーブ料理

九州山地の山の中に、それはまるで異次元の空間が出現したかのようなようである。諸塚村の中心・家代から車で約十五分。村が昭和五十年代から整備を進めてきた「池の窪グリーンパーク」。二〇〇一(平成十三)年、「ハーブ・薬木園」がオープン、〇二年樹木植栽で整備が終わる。

ハーブ・薬木園のほか、レストラン、ガラス張りの白い温室、アスレチック、そして冬でも使えるログハウスの貸別荘。ここでは優雅に時を過ごしたい人のために、いろんな施設が自然の中にしつくりと溶け込んでいる。

まず、レストラン「まあ夢(マーム)」。ログハウスの店内に五つほどのテーブルといすが並ぶ。座るとガラスのコップに冷たい水。そこには青い小さな花が浮かんでいる。憎らしい演出に子供たちは大喜び。味も好評。ピザにはハーブの色とりどりの花がちりばめられ、チーズカ

レー、ミートスパゲティなどすべて手づくり。人気メニューはケーキ。チーズ、チョコレート、ロール、ババロア風と四種類ほどあって、うま〜くハーブの味と香りをケーキ自体の味に合わせている。

ハイビスカスの透명한ハーブティーを味わって外に出ると、周囲はハーブ園。緑の中に、赤や青の花が咲き、すがすがしい空気の中で静かに、ゆったりとくつろぐことができる。何ともぜいたくな時を過ごせるのがうれしい。

ハーブはガーデニングブームにもなると、家庭でも楽しめるようになった。何も諸塚の標高六八〇mの山までくることもないという指摘もあるかもしれない。しかし、ここで観賞し、味わうハーブはまた格別である。

温室には西洋ハーブとともに日本人に親しみのある野草も植えられている。自由に葉を摘ん

で、レストランでハーブティーも楽しめる。

ログハウスの貸別荘は計六棟。十人用四棟、五人用二棟で、料金は十人用が一泊一万二千元、五人用が七千元。自炊の設備も完備、特に夏休みは家族連れで連日満杯とにぎわっている。

このほか、芝生広場、オートキャンプ場、アスレチックなどがそろい、まさに「天空の憩いの場」。利用者は年間約五千人。村外が多く、村民は約三割という。

諸塚は自然と文化の宝庫。登山のほか、神楽見学などの企画を組めば、村外から訪れる人が増えるのは間違いない。その拠点としてグリーンパークへの期待が膨らむ。

永松 敦



ログハウスの貸別荘。家族連れに人気